

令和5年度 津市立南が丘小学校 英語科推進計画

1 これまでの経緯

本校は、コミュニティ・スクールとしての在り方の研究とともに、教科の「研究開発学校」（平成14年度～16年度）としての指定を受けていた。そして、地域住民からの「国際的視野に立ち、子どもたちに英語教育を」という強い願いを受け、平成16年度からは「英語科」を本格実施した。（試行は、平成15年度途中から）「研究開発学校」の指定が終わった平成17年度からは、総務省の「教育特区」の指定を受け、英語科を継続、さらに平成20年度からは、文部科学省による「教育課程特例校」としての指定を受けて、コミュニケーション能力の育成を目標としながら教科としての「英語科」の取り組みを継続し、現在に至っている。

2 本校の英語科教育

（1）本校のめざす英語科教育のために

本校では、英語の発音に慣れ親しみ、実践的なコミュニケーション能力を育てるために、中学校と共に、以下の点を配慮事項として英語科教育を推進していく。

○新学習指導要領をふまえ、指導計画を改善する

- ・5・6年生で新しく使用される教科書「NEW HORIZON Elementary」に沿った授業づくりやそれを使用した「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法について研修を深める。
- ・これまでの積み上げてきたものと教科書「NEW HORIZON Elementary」指導用教材「Let's Try!」の指導内容とを組み合わせた指導を行う。

○小中の接続を考え、指導方法や授業内容を検討する。

- ・中学校英語科教員と連携し、小中9年間を見通したカリキュラムを作成する。また、それに基づいた指導計画を立案し、授業を行う。

○学習環境の充実を図る。

- ・お昼の放送時間帯を使用して、日頃から英語に触れる機会を作る。
- ・アルファベットや学んだ単語を教室内に掲示するなどして学習環境を整える。
- ・クラスルームイングリッシュやリアクションの言葉を掲示し、定着を図る。

○授業における評価規準やそれに沿ったルーブリックを検討する

- ・各学年の各 Unit におけるパフォーマンステストでの評価規準を定め、それに基づいてルーブリックを作成する。

（2）英語科で育てたい子どもの姿

- ・英語や外国の文化に関心を持ち、英語を使い、積極的にコミュニケーションを楽しもうとする子ども

（3）英語科の時間数

- ・1年生：年間17時間（生活科の17時間を充てる）
- ・2年生：年間35時間（生活科の35時間を充てる）
- ・3・4年生：年間35時間

・ 5 ・ 6 年生 ： 年間 7 0 時間

3 英語科指導目標

新学習指導要領では外国語活動、外国語科の目標が次のように設定されている。

○第 3 ・ 4 学年 外国語活動 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」

○第 5 ・ 6 学年 外国語科 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学年目標

低学年	<u>コミュニケーションを図ろうとする態度・資質を育成する。</u> (1)外国語を通して、体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。(知識及び技能) (2)身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりする力の素地を養う。(思考力、判断力、表現力等) (3)主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
中学年	<u>コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。</u> (1)外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。(知識及び技能) (2)身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。(思考力、判断力、表現力等) (3)外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
高学年	<u>コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。</u> (1)外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身につけるようにする。(知識及び技能) (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄において、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語彙を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基本的な力を養う。(思考力、判断力、表現力) (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

4 学習内容

低学年	○ 聞くこと (ア) ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞いておおよその内容が分かったりする活動。 (イ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字を識別する活動。 ○ 読むこと (ア) 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音する活動。 (イ) 対応するイラストや写真などと結び付け、簡単な語句や基本的な表現の意味を理解する活動。 ○ 話すこと[やり取り] (ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示をしたりする活動。 (イ) 動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動。 ○ 書くこと (ア) 自分の名前をアルファベットで書き写す活動。
中学年	○ 聞くこと (ア) 身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かったりする活動。 (イ) 身近な人や身の回りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。 (ウ) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結び付ける活動。 ○ 読むこと (ア) 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音する活動。 (イ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味を理解する活動 ○ 話すこと[やり取り] (ア) 知り合いと簡単な挨拶を交わしたり、感謝や簡単な指示、依頼をして、それらに応じたりする活動。 (イ) 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動。 ○ 話すこと[発表] (ア) 身の回りの物の数や形状などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動 (イ) 自分の好き嫌いや、欲しい物などについて、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら話す活動。 (ウ) 時刻や曜日、場所など、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物やイラスト、写真などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを話す活動。 ○ 書くこと (ア) 大文字(3年生)、小文字(4年生)を活字体で書くことができるようにする。 (イ) 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書き写すことができるようにする。

高学年	○ 聞くこと (ア) ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。 (イ) ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 (ウ) ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。 ○ 読むこと (ア) 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。 (イ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。 ○ 話すこと[やり取り] (ア) 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができるようにする。 (イ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。 (ウ) 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。 ○ 話すこと[発表] (ア) 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 (イ) 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 (ウ) 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 ○ 書くこと (ア) 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。 (イ) 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。
-----	--

5 年間計画

1 学期	・ 年間指導計画の作成 ・ 9年間を見通したカリキュラムの作成 ・ 校内研修会 ・ 授業実践
夏期休業	・ 小中合同英語研修会 ・ カリキュラムの見直し

2 学期	・ 授業実践 ・ 中間評価
3 学期	・ 授業実践 ・ 中学校公開授業参観 研究会 ・ 年度末評価

6 授業について

(1) カリキュラム

- ・ 学年間の調整や児童の理解度・授業の実施具合により、昨年度のものを見直し作成する。

(2) 指導案

- ・ 専科教員が作成する。
- ・ HRT が授業を行う 1・3 学年は指導方法や指導内容、評価基準などについて事前に専科教員や ALT と検討する。

(3) 授業体制

- ・ 1・3 年生は、HRT（学級担任）、ALT、1 人または 2 人で行う。
- ・ 2・4～6 年生は、JTE（英語専科）、ALT、1 人または 2 人で行う。
- ・ ALT との授業を全学年で均等に行うため、A 週 B 週を設け、隔週で時間割を変更して行う。
- ・ 1 年生の授業は 2 学期から行う。

(4) 学年別の時間割

	月		火		水	木	金
1	1 年※・3 年※		5 年	1 年 5 年※		6 年	6 年
2	2 年	2 年※	5 年	1 年 5 年※	4 年	6 年	6 年
3	1 年 5 年※	5 年	2 年・3 年※		1 年・6 年	2 年※・3 年	5 年
4	1 年 5 年※	5 年	2 年※	2 年 3 年※	1 年・6 年	3 年	5 年
5	5 年・6 年		5 年・6 年		4 年	4 年	予備
6	5 年・6 年		5 年・6 年			4 年	

※ALT の来校日だが ALT は授業に入らない

7 評価について

- (1) 児童の英語に対する興味・関心・意欲を高めるためには、実践的なコミュニケーション能力の習得が不可欠であるが、授業中の様子や、振り返りカードの記入内容なども含めて総合的に評価を行う。
- (2) 評価項目の「主体的に学習に取り組む態度」の観点に関しては、授業の振り返りカードの記述や活動の様子等から評価を行う。

- (3) 1・3年生は HRT が評価を行うため、評価についての研修を行うとともに、指導計画に評価の際に見取るポイント等も記載するよう努める。